

MLC210 比較文化論

2年 1,2クォーター

担当教員 今井 祐子

授業形態 講義

単位数 2

曜日・時限 木曜日・3時限

授業概要

16世紀から19世紀にかけて、工芸品（主に陶磁器・漆器）を巡って日本とヨーロッパとの間で展開された文化交流の軌跡を学ぶ。日本人は日常生活で陶磁器や漆器の食器を使う機会が多いが、これらの原料や製作方法について詳しく語れる者はそう多くなく、誤解も多い。また、日本固有と思われがちな工芸品も、その発展は中国や朝鮮半島との交流によって導かれた部分が多い。

本講義では、主に中国や朝鮮半島の影響下で発展してきた日本工芸の歴史や、日本を代表する工芸品の原料や製作方法に関する基礎知識、および大航海時代後に日本の工芸品を受容したヨーロッパの文化とその変容について学び、工芸品というモノを巡る文化交流に関する理解を深める。

授業の終盤では、昨今の海外におけるクール・ジャパン現象を考慮して、現代日本で製作されている工芸品の市場拡大や、多文化に対応したものづくりを展望するプレゼンテーションならびにディスカッションを行う。

到達目標

- (1) 日本の美術工芸品（主に陶磁器・漆器）に関する基礎知識（原料、製作方法、種類、歴史）について学ぶ。
- (2) 日本の美術工芸品のヨーロッパにおける受容とその変遷に関する歴史を学ぶ。
- (3) 目下、福井県内で製作されている工芸品について調べる。
- (4) クール・ジャパンという文化現象を踏まえて、日本の工芸品の今後のあり方について考察する。

期待される効果

- (1) 日本の伝統文化の一端として、外国人に工芸品に関する基礎的な説明ができる。
- (2) 工芸品を巡る文化交流の歴史に関する基礎知識を備え、工芸品というモノを巡る今後の文化交流や経済効果を展望する思考力をもつ。

先修科目

特になし。但し、この授業の後でもよいので「国際文化交流論」を受講すると、より今日的な文化交流に関する理解ができるので受講すると良い。

教科書・参考資料等

初回の授業で、テキスト「比較文化論」を配布する。

参考書：

伊藤嘉章監修『図解 日本のやきもの』（東京美術、2014）

加藤寛監修『図解 日本の漆工』（東京美術、2014）

授業の方法

この授業は、講義担当者が作成したテキスト「比較文化論」に従い、画像・映像を活用しながら工芸品に関する歴史事象を解説する講義形式の授業。授業の最終段階では、外国人に気に入ってもらえるような福井で製作されている日常使いの工芸品について、受講生全員がプレゼンテーションを行い、紹介された工芸品の特徴やその見込まれる販路などについて皆でディスカッションを行う。

成績評価

リアクション・ペーパー：

講義を聞いて新しく学んだこと、講義の中で最も印象に残った点、講義内容に関する疑問・質問などを書く。

プレゼンテーション：

外国人に気に入ってもらえるような、あるいは外国人の生活を豊かにできそうな福井で製作されている日常使いの工芸品について個人で調査し、工芸品自体の特徴や販路、およびその製作に関連する課題などについて説明する。授業の中盤で、当日配布資料の様式を提示する。

ディスカッション：

福井に関するプレゼンテーションで紹介された工芸品について、その特徴や見込まれる販路などについて皆でディスカッションを行う。

レポート：

教員が指定するテーマについて、授業で学んだことや自分で調べたことをまとめて、レポート（2,400字程度）を作成する。

成績

- 10% リアクション・ペーパー
- 20% プレゼンテーション
- 20% ディスカッション
- 50% レポート

授業スケジュール

第1回： ルイ 14 世時代の東洋趣味

フランス宮廷文化が確立されたルイ 14 世治世下で、フランス東インド会社が設立され、王侯貴族の間で東洋趣味が醸成されていく過程を学ぶ。

第2回： 日本の漆器

諸外国との交流の観点から日本の漆工史を概観し、東洋にしか繁茂しない漆の木から採れる樹液（漆）の性質、漆で加工した漆工品の種類と技法、日本の漆芸品の最大の特徴（蒔絵・螺鈿装飾）を学ぶ。

第3回： 日本漆器の海外輸出

大航海時代の到来により日本とヨーロッパが接触し、日本の漆芸品がヨーロッパへ輸出されるようになった経緯と、オランダ東インド会社などを通じて海を渡った漆芸品の作風を学ぶ。

第4回： 日本の陶磁器

諸外国との交流の観点から日本の陶磁史を概観し、陶磁器と総称されるやきものは4種に大別されること、磁器と陶器の違い、17世紀初頭の肥前において日本で初めて磁器が製作されるようになる経緯などを学ぶ。

第5回： 日本磁器の海外輸出

17世紀半ばに肥前で製作された磁器がオランダ東インド会社によってヨーロッパへ輸出されるようになる経緯と、実際に海を渡った磁器の作風を学ぶ。

第6回： ヨーロッパ貴族の日本磁器コレクション

17世紀後半から18世紀前半にかけてヨーロッパの王侯貴族の間で流行した磁器収集に関して、主な国および収集家のコレクションの特色を学ぶ。

第7回： ヨーロッパにおける磁器製作のはじまり① ～マイセン磁器製作所

極東磁器に触発されて、18世紀初頭のドイツにおいて初めて磁器が製作され、後にその秘法が漏れて18世紀のヨーロッパに磁器窯が林立するようになる経緯を学ぶ。

第8回： ルイ 15 世時代の東洋趣味とロココ美術

ルイ 15 世の治世下、国王の愛妾ポンパドゥール侯爵夫人を含む女性たちの影響下にフランスで誕生・発展し、次いでヨーロッパ諸国にも波及したロココ美術と東洋趣味との関係について学ぶ。

第9回： ヨーロッパにおける磁器製作のはじまり② ～セーヴル磁器製作所

極東やドイツの磁器を超える製品を生み出そうと努力したフランスのセーヴル磁器製作所が18世紀後半に他を凌駕する名声を得るまでの過程と、当時のヨーロッパで製作された2種類の磁器（軟質磁器と硬質磁器）の違いを学ぶ。

第10回： ヨーロッパの模造漆器

日本や中国の漆絵を再利用した家具、ヨーロッパ各地で開発された、漆以外の原料を用いた西洋ニスで東洋の蒔絵を模倣する技法について学ぶ。

第11回： マリー・アントワネットと日本漆器

ルイ16世の妃マリー・アントワネット旧蔵の日本漆器コレクションの特色と、その背景にある脇荷貿易の存在について学ぶ。

第12回： 19世紀フランス陶芸にみる東洋趣味

ジャポニスム（日本趣味）が流行した19世紀フランスで製作された東洋趣味の陶磁器を、装飾・材質・釉薬・形態・用途の観点から多角的に学ぶ。

第13回： クール・ジャパン ～和食、お茶、南部鉄器、和紙、服飾品

豊かな歴史と文化をもつ両国が互いに影響を受け合ってきた近現代の日仏文化交流史を概観した上で、現代フランスにおけるクール・ジャパン現象の実態を理解する。

第14回： 福井の工芸品に関するプレゼンテーション

外国人に紹介したい工芸品を福井で発見し、それについて紹介する。

第15回： 福井の工芸品に関するディスカッション

各自が紹介した「外国に紹介したい福井の工芸品」の特徴やその見込まれる販路などについて、皆でディスカッションを行う。

事前・事後学習

- ・授業毎の予習： テキストと参考書の該当箇所を予習してくる（約1時間）。
- ・授業毎の復習： 授業内容を復習し、疑問点を整理する（約1時間）。
- ・プレゼンテーションの準備： 情報を収集して発表内容の構想を練り、プレゼンテーション資料を作成する（15時間程度）。